

DATE: _____

「俺はあれが完全な証明だとは思っていない」“容疑者 x の献身”に登場する数学教師が考えていた問題の一つが四色定理の証明、四色問題と呼ばれる有名な問題である。

この定理の証明の何が完全でないのか。“容疑者 x の献身”には書かれていないが、天才数学者がその生涯をかける価値のある問題として描かれる。

四色問題は 1852 年に提示され、(証明が「完全」であるかどうかは別にして)解決されるまでに 100 年以上かかった非常な難問である。

小説“四色問題”にはその解決までの多くの数学者の努力・ひらめき・奮闘が、少々難解な部分も含めて描かれている。

これら二冊は、推理小説とノンフィクションという異なる性質の本で内容も独立している。

しかしながらいずれかを読んだ上で別を読むとき、頭の中で独立な二冊の間に繋がりを感じ、別々に読んだだけでは味わえない知的興奮が巻き起こる。

これはいわば読書の相互作用と言って良いだろう。

読書の喜びの一つは自分だけの相互作用を見つけることにある。

その一端を感じてもらえれば幸いである。



容疑者 X の献身 / 東野圭吾著
文藝春秋, 2008.8(文春文庫)
生田分館 X/080/B89/Hig
神田分館 J/913.6/H55



四色問題 / ロビン・ウィルソン
[著]; 茂木健一郎訳
新潮社刊, 2004.11
本 館 K/415/W75
神田分館 /415/W75